

# 立山・剣 2005.8.20-22

## メンバー


## 行程表

### 8/21(日) 前日 8/20 新宿駅西口 22:00 集合!!

新宿 →(バス)→ 扇沢 →(トローリーバス)→ 黒部ダム →(ケーブルカー)→

22:30                      5:00/7:30                      7:46/8:30

→ 黒部平→(ロープウェー)→ 大観峰 →(トンネルトローリーバス)→ 室堂(2,400m)

8:35/9:10                      9:17/9:30                      9:40

室堂 → 玉殿岩屋 → 一ノ越(2,750m) → 雄山(3,003m) → 大汝山(3,015m)

10:00

→ 富士ノ折立(2,999m) → 真砂岳(2,860m) → 別山(2,874m) → 剣沢キャンプ場(2,560m)

16:30

【歩行時間:??h??m】

### 8/22(月)

剣沢キャンプ場 → 一服剣(2,618m) → 前剣(2,813m) → 剣岳(2,998m) → 前剣 → 一服剣

5:30

8:40/8:55

→くろゆりのコル(2,520m) →(剣御前巻き道)→ → 別山乗越(2,750m) → 雷鳥平分岐(2,270m)

→室堂(2,400m)

15:10

【歩行時間:??h??m】

室堂 →(高原バス)→ 美女平 →(ケーブルカー)→ 立山 →(電車)→ 富山

15:40

16:30/16:40

16:47/17:12

18:16

富山 →(特急はくたか)→ 越後湯沢 →(新幹線とき)→ 上野

19:02

21:00/21:11

22:22

## 会 計

項目	金額
自宅→新宿	実費
新宿→(高速バス)→扇沢	¥ 4,700
扇沢→(アルペンルート)→室道	¥ 5,460
室道→(アルペンルート)→立山	¥ 2,360
立山→(電車)→富山	¥ 1,170
富山→(JR 特急+新幹線)→上野	¥11,700
上野→自宅	実費
テント幕営費	¥ 500
食費(¥2,000÷2人=¥1,000)	¥ 1,000
温泉はなし	¥ 0
おみやげ	実費
合計	

## 立山～剣 コースメモ

### 【1日目:室堂～立山三山～別山～剣沢キャンプ場】

室堂は、森林限界を超えた、360° 山々に囲まれた一大ターミナルである。すでに観光地化された場所ではあるが、ここを訪れるだけでも十分な価値はあろう。ターミナル入口を出ると、すぐそばに見えるのが「玉殿の岩水」。数万年前からの湧き水だという。(またこの付近には、洞窟の中に光る苔がある「玉殿の岩屋」もあったが、特別な感動もなかった…。)

室堂より一の越は、完全に整備された石の路。なだらかな登りが延々と続いている。山頂神社での参拝を目指した観光客が行列を成していることもある。一の越では立山尾根の向こう側がよく見え、黒部ダムへと続く登山道にも惹かれるものがあつた。一の越より立山までは、本格的な岩場とガレ場の急登となる。見上げればすぐそこに立山神社のお堂が見えているにもかかわらず、なかなかたどり着かなく、踏ん張りどころだ。

立山神社のある雄山。日本三大霊山の一つとして謳われるほどその信仰は強く、山頂祈願を受けることができる(実は、この山頂祈願を受けない限り、雄山山頂へは登れない…。)

雄山からは大汝山、富士の折立と岩場の縦走路となる。これより先は一気に人影も減り、ほとんど登山客ばかりである。富士の折立山頂は縦走路から若干離れた所にある。山頂は狭いが、一つのピークらしいとてもよい眺めである。そして、真砂岳、別山と続くが、ここ一帯は今までの岩場とは対照的に、砂地の道が続く。また、別山山頂には岩壁に囲まれた小さなお堂があり、何かが祀られていた。また別山から北峰までは約10分弱の行程。北峰からは剣沢方面がよく見渡せる。

別山から剣沢キャンプ場までは、こんなに下っていいのかと思うほど、どんどん下る。キャンプ場は別山、剣御前、剣岳に囲まれた窪地にあり、カールが美しい。

★キャンプ場メモ: キャンプ場はかなり広く、1人500円。水場あり(生水は飲むな、と書かれている)。トイレはチップ制だが、比較的きれい(水洗式)。

### 【2日目:剣沢キャンプ場～剣岳～くろゆりのコル～別山乗越～室堂】

剣沢～剣山荘までは、どこにでもありがちな登山道。しかし森林限界を超えている分、すがすがしい。

剣山荘より、いよいよ登りが始まる。稜線に出るまではジグザク道のガレ場が続くが、ここはまだ始まりにすぎない。稜線(=登山道の分岐路)に出ると、ここから富山方面の街並みと日本海が見える(本日ピカールの眺望だった。我々は、ここにザックをおき、軽装になっていざ、剣岳へ。)

まず初めのピークは一服剣。山頂は狭く、ケルンと「一服剣」とは到底読めない看板が置いてあるだけ。ここから前剣方面を見ると、ドカンと下ってその倍以上は登らなければならない登山道が見える…。(天気も悪いので足早に去る。)そして下って、見上げれば先の見えない急登。ここで引くわけにもいかず、岩場のジグザグ道をひたすら登る。所々にペンキで登山道の目印がついているが、フェイントと思わせる道もたくさんあつた。

前剣の直前には鉄板の渡し場があり、それを超えると鎖場登場。そしてようやく前剣山頂となる。しかしここで喜ぶのもつかの間、次の剣岳へ向け再びルートはアップダウンすることとなる。早速鎖場の下り道が待ち構えていた。(なお、鎖場付近は上りと下りでルートが決められており、前剣山頂へは上り専用のルートでないといけない。)

下りきってから再び岩場の登りが続く。幾度もの鎖場を越え、やがて現れるのがカニのタテバイ。岩には手をかけたり足場となる鉄棒が打ち付けられ、さらに鎖を使って登る。タテバイが終わってからもしばらく岩場の登りが続き、ようやく分岐が見えたらあとひと踏ん張り。やはりペンキ印をたどって行くと、岩場の陰から剣岳山頂のお堂が見える。剣岳山頂は小さなお堂とケルンがあるのみ。それほど広くもない場所だが、晴れていれば360度のパノラマが見えるに違いない。

剣岳からの下りは、もと来た道のほかに、所々で下り専用のルートをたどる。なお、下りルートの名物、カニのヨコバイは、横に這うというよりは、斜め左下にずり落ちていくといった感じ。三点確保をイメージしても足場探しは難しく、思い切って足を先へ先へと伸ばしていくしかないと思われる。また、前剣付近の下り専用ルートは、山頂を巻く形となるが、ここにも鎖場は存在する。

一服剣の分岐からくろゆりのコルまでは、稜線上で所々ハイマツにルートが隠されている。あまり人が入っていないのかもしれない。くろゆりのコルから剣御前の巻き道は、なだらかな登りが続いていく。その途中、岩場や雪渓の上を通過。さらに登ると別山乗越の山荘が見える。

別山乗越からは急登の雷鳥沢を下る。雨が降るとこのルートは川のように水が流れていくが、比較的整備されており、ほぼジグザグ道。やがて下りきった川を越えると室堂となる。

## 食料の記録

♪8/21 昼

**サンドイッチ**(ロールパン、ソーセージ、タルタルソース)

→ツナマヨを持ってきたかったところだが用意できず、急遽タルタルソースを持参。しかし、やはりツナマヨの方がよい、ということが証明されたのであった。

♪8/21 夜

**鶏あんかけ丼、和風サラダ、味噌汁** (米、鶏あんかけの素(レトルト)、ツナ、玉ねぎ、かつお節、醤油、味噌汁の素)

→大失敗だったのが玉ねぎ。当初炒める予定の玉ねぎを、急遽サラダとして使用したが、たとえ水に浸して苦味をとったとしても、苦かった…。ツナと玉ねぎを和え、かつお節と醤油をかける、といたってシンプルな和風サラダだったが、サラダ用の玉ねぎは少量で十分なのだ…。結局、これを最後まで食べてくれた吉田氏には敬服である。

鶏あんかけ丼はレトルトなので失敗はなし。レトルト、強し!!

♪8/22 朝

**たまごリゾット、じゃがりこマッシュポテト、焼き鳥、紅茶** (米、たまごスープの素、じゃがりこ、焼き鳥の缶詰、紅茶)

→噂のじゃがりこマッシュポテト。お湯で溶かしてつぶすだけ、という簡単なレシピ。おいしかった。

♪8/22 昼

行動食 (大雨のため、とてもお昼どころではなかった…。行動食どころでもなかった…!?)

◆特記事項：今回のメニューとは直接関係ないが、黒部平にて鮮明に記憶に残されたあの味、それは…

**「激辛わさびソフトクリーム」**。何かがおかしい…。絶対に一般客向けとは思えない…。そして、**「わさび&バニラソフトクリーム」**。たとえバニラがあってもわさびが強すぎる…。

(正解はきっと「山ぶどうソフトクリーム」だったに違いない…。)

## 立山、剣岳 山行記録 2005.8.20-22

黒四ダムを見学し、一般客向けとは到底思えないわさびソフトクリームを舐め…、と観光気分からのスタートだった。しかも今回は立山黒部アルペンルートというかなり便利な交通手段を使って標高 2,400m の室堂まで行けてしまう。そこから山頂までは 600m 程度の登りしかないのだから、案外気楽に山行を終えられるのではないか、とのんきに構えていた。

立山は、私にとって 2 回目の登頂である。前回は 8 年前。文部省登山研修の際、最終日に立山三山を縦走して下山したのだが、当時、隊の歩くスピードは速く、私が好きな「のんびり」とは程遠いものだった。

今回、改めて知ったことは、立山が日本三大霊山の一つである、ということだ。その名にふさわしく、多くの一般客が山頂参拝を目指していた。私たちも山頂にてお祓いを受け、すがすがしい気持ちで立山登頂を終えた。そして今思えば、今年は立山、去年は白山、一昨年は富士山、と 3 年連続で日本三大霊山を登っていたわけで、私もいよいよ山岳信仰の信者の端くれになれたかもしれない、と自負した。

その後、真砂岳、別山を経て、カールに囲まれたくぼ地にある剣沢キャンプ場へ。天気はだんだんと暗くなっていったが久々のキャンプ。テントを張り、炊事した料理を食べ、シュラフに包まり…、ここは山なんだとあらためて実感しつつ、快適に眠れた。

翌朝、大雨と大風で目が覚める。予定どおり 2 時 15 分には起きたものの、天候が悪いだけで行動が面倒になる。それでも行くだけ行ってみよう、といざ出発。出発後、登山研修の小屋や、ビバーク練習をしたテン場などが遠くから見え、感慨にふけた。

さて、剣岳。地図ではわかっていたものの、実際にルートを目の前になると気が重くなる。一服剣、前剣、剣岳と 3 つのピークを経て登頂となるため、もちろんアップダウンも 3 回繰り返される。途中の分岐でザックをサブザックに替え、身軽になって出発したものの、その足取りもだんだん重くなる。しかも雨風が強くなり、下から顔をたたきつけられる雨は本当に痛かった。途中で引き返した方がいいのではないかと、とも思っていた。その悔しさをばねにまた剣にすればいいかな、そんなことも思っていた。しかし、それでも歩いた。あれほど行きたいと夢見た剣岳だからこそ、ここまで来たら引き返せない。長丁場の鎖場も数回、緊張しながら一步一步前進し、気がつけば噂のカニのたてばいも通り過ぎ、剣岳山頂にある小さなお堂が見えたときには、感極まって泣けてきた。ここを目指していたんだって。

これだけの試練を乗り越え山頂に立ったなら、何かいいことが起こるのでは、救われるのではないかと、いつもそんな想いに駆られる。しかし、いつも何も起こらない。(ただし、りゅうが山頂に落ちていた穴の開いた手袋を見つけた。軍手を忘れた私にとってはそれだけが唯一、神様からの贈り物をいただいたのかも、と思えたことにした。) 結局、山頂で登頂記念の写真を撮り、リコーダーを吹き、お堂の前で登頂したことの感謝と、無事に下山できるようにとの祈願をし、そして、もと来た道に戻るしかないのだが、今回はそれでも無事ここまでたどり着いたことに対して、ちょっとだけ自信がついたかもしれない。(それにしても、下山ルートのカニのよこばいは怖かった…。)

剣岳で力尽きてしまったのか、最後の最後、室堂付近で私はばててしまった。(おそらくおなかの空きすぎ…。) しかも大雨の中しんどかったけど、何とか室堂バスターミナルまで着き、下界に戻って来られたことに安堵を覚えた。

そして、特急、新幹線を利用しての帰京。今回は 1 泊 2 日にしては、移動距離も、標高も相当あったのではと思うからこそ、ここまで山を身近に感じられる人間の文明にも敬服した。

2005.8.28 石川暁崇